

日本一のボランティアのまち 川口 ～こんな取っ掛かりで足場ができました！～

3人の共助仕掛人の取組をつなげ、地域課題を解決するための足場をつくりました。子育て世代が多く移住してきている川口市、高齢化が進む川口市、新たな課題を解決するためにマッチングを実践しました。

川口市共助仕掛人
江藤 登さん 絹山 利昭さん 原田 奈緒さん



<イベントちらし>

●「市民活動に参加したい・NPOと交流したい」

(G君、スポーツトレーナー)

→市の講演会・NPO催事にレッツゴー！名刺交換したらすぐ仲良くなりました★

●「イベントにお客さんを集めたい」(川口市内NPO・任意団体など)

→近場公民館にチラシ、最後は口コミ作戦+Facebook大量拡散で集客成功★

● 起業団体の「学童保育支援の仲間を増やしたい」(学童保育キッズビレッジ)

→市の情報活用がポイント、複数NPOと連携・コラボでイベント開催できました★

●「コミュニティ食堂を立ち上げたが、たくさんの地域の方が来てくれたらいいな」(夕暮れ食堂)

→地元の町会・近隣住民・NPOの協力で支援者が増え軌道に乗りました★

●「もっと防災まちづくりで街を活性化したい」((特非)川口市民防災ボランティアネットワーク)

→自前拠点(縁joy和ツショイ工房)の子ども教室・音楽サロン・防災講座で地域が活性化★

<音楽サロン>



<夕暮れ食堂>



Voice 2

「共助仕掛人への期待」

岸本 幸子 氏

((公財)パブリックリソース財団専務理事)
埼玉県共助社会づくり推進委員会副委員長



共助社会は、誰もが自分らしい方法で、少しずつ世の中が良くなることに貢献して、自分も回りも幸せになることを目指しています。この仕組みを実現するには、それぞれの人が持っている力が「出会い」「組み合わせられる」こと、かかわる人の共通の「夢」を描くファシリテーションが必要です。埼玉県の共助仕掛人は、ほっとおいてはありえないようなベストの「出会い」を実現し、かかわる人の共通の夢の実現を推進するユニークな仕組みです。知恵や知識、能力、経験、体力で貢献する人、お金で貢献する人。人脈や組織力で貢献する人。空き家、空きスペースのような資産を地域に提供する人。地域社会にはさまざまな市民力が潜んでいます。それぞれの市民が持っている力を組み合わせることで、課題を解決し、夢を実現し、人と人とのきずなが結び直される共助社会。その推進に向けて日々地域を歩き、地域資源を掘り起こす共助仕掛人に、これからも熱い期待が寄せられます。

環境を守りながら、まちづくりを実践！
地域住民の力でまちを活性化！

本庄市

(特非)ネットワークひがしこだいら

- ◆ 環境保全 (あじさいの小路、不動滝 他)
- ◆ 伝統文化の復活 (小平獅子舞)
- ◆ 文化財の保全 (高窓の里、鱈口、成身院百体観音堂 他)

メール hisashi134@catnet.jp



飯能市

てんらんさん どうのすやま (特非)天覧山・多峯主山の自然を守る会

代表理事 浅野 正敏 さん



- ◆ まちと自然をつなぐ「まちづくり」
- ◆ 環境保全と観光 ◆ エコツーリズム
- ◆ NPO法人会報 やませみの発行
- ◆ 市民参加ワークショップ



HP <http://www.tenranzan.com/>

人口密度が低いかわりに、誰に会っても共通の知り合いがいる“人のつながり高密度”の県北地方。中でも熊谷は、周辺から、全国から、多彩な人がやって来る交通の要衝です。そんなよさを生かした熊谷型共助で効果を発揮するのが、タイプの異なるグループのマッチング。世代、ジャンル、経験など幅があるほど、意外なアイデアで広がる活動になりました。

★一年ごとのバージョンアップで多文化「共助ニュース」を発信！

歴史の長い NPO くまがやは後継者不足に悩んでいました。平成 26 年度に加入したのが、ニ FM 局「ヤバイラジオ」の若い世代。平成 27 年度にはコミュニティサロン「キューノ」を立ち上げ、平成 28 年度には熊谷市市民活動推進課と協働事業でラジオ、フリーペーパーの問題提起プログラム「熊谷共助ニュース」をスタートさせました。市民の声を広く拾う「もんだいカフェ」では、「高齢化社会」「観光」「バリアフリー」などをテーマに熱いトークが繰り広げられています。

【その他】

●シニア中心の桜育成事業

⇨ 転勤族協会のグループがホームページ作成で協力

●シニア中心の紙芝居グループ

⇨ 海外出身の多文化交流サークルがクリスマス紙芝居を上演

●まち中のフライ焼き店拠点の文化グループ

⇨ 関西出身子育てサークルのたこぼ(たこ焼きパーティ)とジョイント

●市内のそば打ちサークル

⇨ 市外のそば、耕作放棄地対策のグループを見学



<熊谷星川みんなの家>



<もんだいカフェ>



学習塾経営者、編集者・ライター
のキャリア、深谷、本庄での経験から、ジャンルや世代、地域を越えた広がりのあるマッチングにトライしています。



<ローシキ音楽祭>

シニアや女性などへの様々な支援を私たちと一緒に！

ふじみ野市

(一社)日本聴導犬推進協会

- ◆ 候補犬導入の安定、訓練士の育成、
 - ◆ 普及活動の増加、教育事業の発展
- 他



HP

<http://www.hearingdogjp.org/>

さいたま市

(一社)コレカラ・サポート

代表理事 千葉 晃一さん

- ◆ 高齢者支援事業 (相続対策、財産管理、家族信託)
- ◆ 空き家活用事業 (ソーシャルビジネス、コミュニティビジネス)
- ◆ 講演・研修事業(セミナー)



HP

<http://www.koresapo.com/>

熊谷市

転勤族協会

代表 奥田 美和さん

- ◆ 女性の働き方を支援
- ◆ 全国に転勤族ネットワークをつくり、情報発信している
- ◆ 地域活性化を支援

HP

<http://tkk48.net/>

熊谷市

(特非)ARUKAS KUMAGAYA

- ◆ 「SAKURA、はぐくむ。」を合言葉に女子ラグビーの活動を支援
- ◆ ラグビーを普及させるためタグラグビーを子供に指導。



HP

<http://www.arukas-kumagaya.jp/>

Voice 3



「垣根を超える」

粉川 一郎氏
(武蔵大学教授)

共助社会づくりがうまくいかない最大の理由。ネットワーク間のネットワークがないこと。いわゆる大都市の真ん中ではないと、地域にはさまざまなネットワークがあります。その一つ一つのネットワークが、内部だけで完結している。そうすると、そのネットワークが行うことは、これまでの活動の再生産にとどまってしまう。社会的な課題が増大する中で、臨機応変に市民の活動が活性化するためには、「異文化」「異世代」との出会いが不可欠です。ネットワークの垣根を超える。それが共助社会づくりの肝となります。ネットワークの垣根を超える勇気を持ち、人の接着剤となれる人を見つけ出しましょう。